

# 法理論研究会定例研究会

Harold Garfinkel (1917-2011) が創始したエスノメソドロジ (ethnomethodology) への理解は、長い間、Garfinkel (1967) 以後のテキストを理解することを中心に行われてきた。近年、これに対して、Garfinkel の初期の著作の公刊などにより、エスノメソドロジの構想には、その学界的影響の開始(1960年代末から70年代)のかなり以前に起源があることが強く示唆されるようになった (Rawls 2013)。

本報告では、Garfinkel の Harvard 大学院時代 (1940年代後半から1950年代) から UCLA 時代 (ここではほぼ1954年からGarfinkel (1967) 刊行まで) における、社会現象学 (Aron Gurwitsch と Alfred Schutz の現象学) と Talcott Parsons の社会学理論の Garfinkel への影響について考察を行う。

See the link below for further details.

<http://www.juris.hokudai.ac.jp/ad/event/20160323>

報告者

**檜村志郎氏**  
(神戸大学)

「社会的な世界は  
いかに把握されうるか？」  
— エスノメソドロジの失われた原問題をめぐって —

By Arlene Garfinkel (Garfinkel's family) [CC BY 3.0 (<http://creativecommons.org/licenses/by/3.0/>) or GFDL (<http://www.gnu.org/copyleft/fdl.html>)], via Wikimedia Commons

日時：2016年3月23日(水) 14時～

場所：北海道大学法学部 センター会議室 (3階315室)

主催：北海道大学法理論研究会、北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター  
問合せ [jcenter@juris.hokudai.ac.jp](mailto:jcenter@juris.hokudai.ac.jp)